

## 臨床検査総合部門研修会

「認定取得ガイダンスⅡ～スキルとキャリアアップを目指して～」

会 場 : 大崎市民病院 3 階会議室

日 時 : 平成 30 年 3 月 17 日 (土) 14 : 00～16 : 30

参加人数 48 名

発表者

認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師

国立病院機構仙台医療センター臨床検査科

福富 紀子 技師

認定認知症領域検査技師 塩釜医師会検査センター

阿部 美彌子 技師

認定病理検査技師 大崎市民病院臨床検査部

高野 託願 技師

認定臨床微生物検査技師 石巻赤十字病院検査部

尾池 泰典 技師

認定心電技師 東北大学病院生理検査センター

佐々木 絵里奈 技師

### 内容

各演者は発表時間 20～25 分で発表を行った。演者自己紹介から始まり、認定の簡単な歴史や概要、認定取得を目指すきっかけ、認定取得までのスケジュールの話があった。認定取得までの勉強方法として、参加した研修会について、必要と思われる参考書、その中でも演者が特に重要と思われた書籍の紹介があった。認定取得までかかるおおよその費用では、職場のバックアップがある施設とすべて自己負担という施設もあった。しかしバックアップがある施設でも、自己負担分が結構あると感じた。演者は昨年または一昨年認定取得した方達だったので、最新の認定試験の状況、また実際に出た問題を数例提示していただき、傾向と対策に大変有用な情報であった。宮臨技の研修会が役に立ったという意見がある一方で、まだまだ不十分だという意見もあった。同じ施設で先に認定取得をしている先輩や他施設の先輩、さらに他医療職とのコミュニケーションも重要と思われる発表もあり、そういった意味で、宮臨技を中心に県内技師の情報交換が進むことを期待したい。また試験対策には、日々のルーチン業務、学会発表での抄録作成、関心あるテーマの論文を読むこと等が密接に関係していた。認定取得には、その分野の知識、技術の向上だけでなく、国の医療政策、保険診療、臨床検査への社会的ニーズといった管理面の知識も必要とされていることもわかった。最後に認定取得した演者への施設での評価について質問があったが、全員がこれで終わりではなくこれからがスタートで、評価は気にしていないという謙虚な姿勢に心を打たれた。認定取得を目指す方たちへ大変良いアドバイスが聞けた研修会であった。

文責 大崎市民病院 氏家 和明